

明豊初の決勝へ

センバツ 県勢54年ぶり



【明豊－中京大中京】4回表明豊1死満塁、塘原の左犠飛で、三走の竹下が生還し、先制に成功＝31日、兵庫県西宮市の甲子園球場、撮影・仲道裕司

明豊が優勝に王手！ 第93回選抜高校野球大会第10日は31日、甲子園球場で準決勝があった。県勢の明豊は第2試合で、好投手を擁する中京大中京（愛知）と対戦し、5－4で接戦を制して、初の決勝に駒を進めた。県勢の決勝進出は1967年の第39回大会を制した津久見以来、54年ぶり。

明豊は四回、打線がつながった。先頭、竹下の左前打を足がかりに、四死球などで1死満塁とし、塘原の左犠飛で先制した。なおも2死一、二塁で、太田の右前打、蓑原の左翼フェンス直撃の二塁打、阿南の中前打で4点を加えて主導権を握った。

その後は追加点を奪うことができなかった。それでも投手陣が踏ん張った。先発左腕の太田が好投し、六回途中から救援した右腕の京本が気迫の投球で終盤3回を最少失点でしのいで逃げ切った。

大会最終日は4月1日、決勝（午後0時30分開場）がある。

明豊は、東海大相模（神奈川）と優勝を懸けて戦う。

明豊は、東海大相模（神奈川）と優勝を懸けて戦う。

購読お申し込みは
フリーダイヤル 合同 ミナヨム
0120-510-374
または、お近くのプレスセンター（販売店）